

1	審議会名	真田地域協議会
2	日 時	平成25年12月11日(水) 午後7時00分から午後8時40分まで
3	会 場	真田地域自治センター3階 301会議室
4	出席者	一之瀬勤委員、内海美香委員、小林満子委員、佐藤論征委員、清水茂委員 関貞徳委員、田中新平委員、長崎伊登子委員、半田榮範委員、古市正明委員 堀内朝子委員、丸山進委員、柳沢章夫委員、山口市江委員、山宮浩美委員 横沢憲治委員 【欠席委員】4名
5	市側出席者	高橋センター長、藤沢地域振興課長、西澤市民生活課長、若林健康福祉課長 滝澤産業観光課長、中山建設課長、柳沢教育事務所長、佐藤消防署長 滝沢地域政策係長、林主査、西澤主査
6	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者 0人	記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成25年12月24日
協 議 事 項 等		
1	開 会 (関副会長)	
2	<p>会長あいさつ (半田会長)</p> <p>昨日の季節はずれの雨に続き、本日は雪模様となるような激しい気象状況であるので、それぞれ健康に注意願いたい。本日は上田市の活性化のために様々に取り組みされている信州上田まつり実行委員会の中澤事業部長にお越しいただいた。これまでの苦労話など色々とお聞きし、この地域のイベントや活性化の参考にさせていただき、今後の議論に生かしたい。</p>	
3	<p>センター長あいさつ (高橋センター長)</p> <p>本日は中澤事業部長から実践されている経験や生の声をお聞きできるものと思う。参加型の地域づくり、イベントを真田地域でどのように生かしていくのか、参考にできれば良いと考えている。</p>	
4	<p>会議事項 (進行: 半田会長)</p> <p>(1) 『信州上田まつり実行委員会』について</p> <p>(会長) 信州上田まつり実行委員会の事業部長として活躍されている中澤さんからお話をお聞きする。第1分科会はもとより各分科会にも関係する部分があると思うので後ほど意見交換もお願いしたい。事務局から中澤部長の紹介を願いたい。</p> <p>～事務局から講師紹介～</p> <p>～資料に基づき信州上田まつり実行委員会 事業部長 中澤信敏氏講演～</p> <p>《講演要旨》</p> <p>旧真田町で行われていた夢設計塾、真田未来塾の皆さんが自分達のやりたいことを楽しみながら地域活性化に向けて取り組む活動を見て地域活動に参加するようになり、その活動を見ながら自分達がやりたいこと、課題に思うことはどのようなことかを意識しながら取り組んできた。</p> <p>まつり実行委員会設立の経過は、上田商工会議所が事務局となって行っていた上田真田まつりを上田市が受け継ぐことが始まりと思うが、民間の祭りは民間主体での実施が望ましいことからであった。同時期に上田市は観光をリーディング産業にしようとしていた。祭りは文化であると捉えているが、これを産業にしようとする流れのなかで、千本桜まつりに多額の予算を用い大型バスは訪れるが、地元にお金が落ちないという話が地域からは出ていた。行政が産業にしようとして進めてはいるものの、民間も一緒になってやらないと予算を投入するばかりになってしまうと懸念し、批判するよりも一緒になって取組み、いかにしてお金を回収するか、地域経済に影響を与える結果を見出せるか、民間が動かないと進まないのではないかと考えた。</p>	

以前の上田真田まつりは文化活動の発表の場であり市民が楽しむ祭りであった。千本桜まつりも市民が関わる接点が少なく、観光をリーディング産業にという割には民間の動きが無いという状況であった。そのようななかで何を何処まで、どのようにすれば産業となるのかという目標値の設定や、様々な人を巻き込み、地域経済を潤すことを真剣に考え取り組まなければと考えた。まつり実行委員会はどのように人材を集めて組織を成り立たせるか悩んだところである。行政側からの案は上田真田まつりの実行委員会のメンバーに声を掛けて組織するもので、踊り・民謡・太鼓など文化活動の発表の場としている団体と旅行・交通・観光業者が加入する観光コンベンション協会とで構成していた。文化活動団体の皆さんは自らの発表の場があることで満足し、経済の活性化には結びつかず、観光産業関係者は祭りの実施による集客が自分達にどのような影響を及ぼすのかを考慮せず積極的には関与しないという人が多かった。祭り自体をどうしていくか、観光を産業にするためにどのような仕掛けをしていくかという議論があまり無く民間は民間で自分の仕事をこなしているという状況であったので何とか引き込んで、これまで観光業で潤っていた人達以外の人も含めて少しでも多く観光で経済の循環ができるようにするためにはどのようにしたら良いか、仲間集めと共に進めていった。これが、まつり実行委員会の土台作りとなるが、新しい組織を作り動かすためには明確な目的が必要であるので、地域経済の振興を一番の目的とし、観光客を増やすこと、観光による地域経済の活性化、滞在型観光の推進を目指した。

現在、実行委員会では各イベントの企画や下準備、協力者への声掛けなど行うほか、プロジェクトチームに分かれて課題に取り組んでいる。まつり実行委員会を組織した後、千本桜まつりなどどのように事業を進めるべきかを議論し、委員の意思統一として市民・観光客・スタッフが楽しめ、地域の活性化につながるイベントにしなければならないとし、委員から自分達でやりたいことの提案を募り、計画づくりから委員で行った。課題としては民間から提案された事業をどのように取捨選択していくか、提案事業を毎年上田市の予算を使って行う恒例事業としてよいかなど議論すべき点があった。また、まつり実行委員会の組織拡大の必要性も感じていた。事業部会などにおいても参加者が固定化しつつあり、リーディング産業を目指すのであれば、さらに動員していかなければならないと考えている。常に開かれた会であり、参加を希望する者を受け入れる体制でなければならないと考える。事業部会でまつり実行委員会の各事業を進めてきたが、コアメンバーでたたき台となる原案を作成し事業部会で審議し、まつり実行委員会全体で承認してもらうという3段階のプロセスを民間と行政で行うなかで、コアメンバーと事業部会のメンバーが同じ顔ぶれになってきており増強の必要があると考えている。

大きな3つの祭りを行っていけば上田市の観光は産業になり得るのかという点には疑問があり、商品開発や観光客誘客のプロジェクトを推進する必要があると考える。祭りだけでは産業とすることは難しいということも見え、また、まつり実行委員からも様々な提案も出てきたことから観光を産業に結びつけるために各プロジェクトチームを組織して協議し『美味だれ』の商標登録にも至っているほか、千本桜の名前を生かした洋菓子の商品開発を市内の洋菓子店に依頼し、祭り期間中に物販してもらうことにも取り組んだ。また、市内の観光資源を洗い出して旅行会社への情報提供を行ったほか、新幹線延伸に向けてどのような取り組みや準備をすべきかなどを話し合っている。まつり開催期間に行っている食のイベントは、従来は実行委員会から依頼しての出店であったが、産業に繋げるためには出店者の主体性が必要と考え、イベントをどのようにしていくか自分達で企画・検討するようにプロジェクトチーム化した。様々な課題に対して各プロジェクトチームで検討しているが本来ならば観光を産業にするスピードはもっと早くダイナミックに展開すべきであろうが現実的には難しい状況である。本来であれば各プロジェクトチームは官民一体となった観光業のプロによる組織が深い議論をし、進めるべきと思うが、地域間競争に遅れをとらないために信州上田まつり実行委員会が進めているという状況である。

何かを始めるには、気軽に自分の想いを語る場、夢を語らう場は重要である。出せる限りの想いを出し合い、何が出来るか何をするかを整理し議論していくことと思う。自分の子どもや孫に胸を張って引き継ぐことのできる街にしたいと考え、そのためには経済が安定していることが重要であり、地域間競争に勝つ必要がある。効率や合理化などを考えてしまうと何も出来なくなると思う。夢を現実のものとしていくためには、市民協働、役割分担が必要と思う。行政には市民の熱い想いを理解し、汲んで一緒に取り組むことを望むが、民間は行政だけに任せることなく知恵や手を出して一緒に取り

組んでいく必要があると思う。夢を語る場と手法を考える場は別にすべきと思う。夢を語る際にその夢を実現するための手法を考えてしまうと、実現に結びつけることをイメージすることが出来ずに夢を語ることを止めてしまうと感じた。想いは全て出し、実現への手法は別の機会に皆で悩めば良いと思う。経済の活性化を目指す、観光を産業にすることは小手先ではできない、まつり実行委員会という任意団体による活動だけでなく民間も行政も予算を使い、本当にどうするのかという活動にしなければ産業にはならないと考えている。

(会長) 中澤事業部長に質問等ありますか。第1分科会では真田地域の祭り・イベントの協議会なども議論したと思うが関連することなどどうか。

(委員) 信州上田まつり実行委員の活動は皆さんが手弁当での活動か。

(中澤部長) 報酬などはない。

(会長) 実行委員の皆さんは、色々な祭りの前段での企画を主として担当し、実際に実行部隊として動くのは行政であるという話があったが、行政との役割分担や連携はどのように進めているのか。

(中澤部長) 事業部会の構成員も人員は少ない。企画は盛り上がってしまうが、やりたいものを行うと決定した際に、いかに人材を確保するかが課題となる。事業を提案した者が人材を確保していくが、イベント全体の中で補佐的な部分を行政の担当者にお問い合わせする部分もある。上田真田まつりなどは運営自体が非常に大きい話になっているので役割分担をするが、実行委員会が担う部分は出演者の方になってしまうので、ほとんどの裏方は行政が準備・運営補佐を行っている。

(会長) 千本桜まつりなど企画する場合に、祭りに参加する団体は多数あるが、それらの団体からやりたいことなどの意向を吸い上げて企画を考えるのか、あるいは、実行委員会で企画を考えて各参加団体へ振り分けるのか。

(中澤部長) まずは企画を募集するが、あまり出てこない。文化団体が祭りに期待するのは自分の出番であり、それ以外の皆さんは、おもてなしの手段などを提案する。

(会長) 継続して行うイベントは固定化してきていると思うが、実行委員会を立ち上げた際に、色々な要望・意向を取りまとめ取捨選択されたとのことだが、上田市内には様々な団体があると思うが全ての団体から収集できたか。どのように情報収集したか。

(中澤部長) どのような団体が活動しているかについては全て網羅できていないと思う。分かる範囲でということになるが、広報紙などで公募するほかは無いと思う。実際には人づてが多い。

(会長) 祭りを産業に結びつけるプロジェクトチームでの取り組みは真田地域でも非常に参考になると思う。これらについて協議会のなかでも議論されてくれば良いと思う。

(田中第1分科会長) 真田地域の真田まつり実行委員のなかで、祭りは誰のための祭りなのか、地域の人が楽しむものに特化すべきか、真田地域以外からの誘客を狙うのかで議論になる。どちらかに絞ることにも疑問が残るが、信州上田まつり実行委員会ではそのような議論は無かったか。

(中澤部長) まつり実行委員会を立ち上げる際に、経済活性化のために行うと位置づけた。自分達の発表の場として祭りを楽しみにしている市民もいると思うが、実行委員会では観光で来る人が楽しむためにという位置付けで準備・企画をしている。上田真田まつりでも戦国時代の武将絵巻をやるなかに神輿やかつぱれ、民謡も出演している。様々な議論もあるが地域の団体を除くのではなく、地域の出演者が観覧者を連れてくることもあり、時間や場所を整理して出演していただいている。

(会長) そのほか特に無ければ『信州上田まつり実行委員会』については以上とします。

(2) 地域振興基金の活用について

(会長) 事務局から説明願いたい。

～資料に基づき、若林健康福祉課長、滝澤産業観光課長から説明～

(会長) 質問・意見があれば出していただきたい。

基本的に地域振興基金の活用をする事業の対象はどのようなものか。事業対象の考え方、活用の仕方は。

(滝澤地域政策係長) 真田氏歴史館の企画展開催や周遊図印刷など非常に地域特性によるものについては10割充当している。真田保健センターや入口看板設置等、公共施設的なものについては1/2充当している。充当する事業は全市的に見て財政課としては顕著な必要性が認められないとされたものの真田地域においては特に必要である事業について1/2基金を充当し予算要求している。

(会長) 市の一般財源からの補填は、保健センター管理事業については1/2有るとのこと。歴史館の企画展開催200万円については26年度限りのものか。

(滝澤産業観光課長) 企画展は22年から継続している。26年は大坂の陣関連で計画しているが翌年も企画展を開催する予定で計画している。

(会長) 25年度の企画展も予算は200万円であったか。

(滝澤産業観光課長) 実績額の確定に至っていないが予算は200万円である。

(会長) 周遊看板撤去ということだが、撤去して再度設置するのか。

(滝澤産業観光課長) 既存の看板は平成5年に上田地域広域連合で上田地域の紹介のため設置したものであり、老朽化により撤去される。その場所に真田氏歴史館の入口看板を設置する。

(委員) 基金を使い事業を行っているが、いずれ基金が枯渇した際には市の一般財源から予算措置されるものか。特に企画展のように継続して行う事業など基金終了後には一般会計からということになるのか。

(高橋センター長) 基本的にはそのようになる。真田地域だけでなく、丸子・武石各地域にそれぞれ基金がある。真田地域では図書館について持ち寄り基金を大きな財源として建設したように各地域で活用している。合併後10年となるので基金については、それぞれ一定程度使用することとされている。基金終了後は一般財源で手当てをし、事業を行うこととなる。

(委員) 市全体で見ると優先順位の低いものについて基金を活用するという説明があったが、基金終了後に一般財源で事業を行うとなった場合には、上手く予算要求していかなければならないか。

(高橋センター長) そのとおりである。26年度の真田保健センター管理事業についても事務査定を経た検討のなかで他の要求箇所と合わせて基金を活用して実施したいとしたものである。

(会長) そのほかに無ければ、地域振興基金の活用について地域協議会として認めてよろしいか。

- ・ 全員了承

【決定事項】

- ・ 平成26年度地域振興事業基金活用計画を真田地域協議会として承認。

(3) その他

(会長) 各委員から報告等ありますか。

- ・ 特になし

5 その他

次回協議会の開催予定について

(副会長) 次回の協議会の日程について協議会終了後に役員会を開き、1月・2月の協議会の開催

について調整し後日通知したい。

【質疑・意見等】

- ・ 特になし

(副会長) 行政からの連絡事項を願いたい。

(中山建設課長) 花と緑のまちづくりの写真パネル展示と運賃低減バスの輸送実績について
～展示の内容と真田地域路線バスの輸送実績等について報告～

(会長) 市からの補助金が例年どおりであった場合に採算ラインを超えるのは乗車人数が何倍になれば良いのか。

(中山建設課長) 本庁の目標としては1.5倍である。

(高橋センター長) これまでと同じ乗車人数では、7・8千万程度の赤字が増えることとなる。

(会長) 協議会委員の皆さんも利用促進を働きかけていただきたい。

(滝沢地域政策係長) 地域協議会委員への事務連絡等について
～地域協議会の公募委員申し込みについて説明～

6 開 会